

◎総領事からのメッセージ(第4回)

本年1月21日に着任後、4回目の情報発信となります。今回は、3月11日から3月4日迄の2週間の活動を簡単に御紹介致します。 在マイアミ総領事 川原 英一

■ 東北地方太平洋沖地震と直後の対応について

3月11日(金)午後1時46分頃(日本時間)に東北地方を中心にマグニチュード9という日本の観測記録史上では最大、世界でも4番目に大きな地震被害に見舞われ、多くの方が不幸にも貴重な命をなくされました。当地では時差の関係で同じ日の早朝にこのニュースが入りました。震災後、日本に対して131か国・地域及び33国際機関からの緊急援助・支援の申し出がありました。当総領事館にもお見舞いのメールと電話、在留邦人や米国人から日本にいる身内・知人の安否確認の電話や直接窓口を訪問しての問い合わせが殺到しました。



また、弔問・記帳のため、在マイアミ各国総領事が当館へお越し頂きました(写真左:カナダ総領事、真中写真:ウルグアイ総領事、右側写真:イタリア総領事)。

報じられる地震と津波による被害規模が明らかになるにつれて、毎日発表される死亡者・行方不明者数が増大し、大変に痛ましい状況となりました(*)。

(*死者 9,737 名, 負傷者 2,766 名, 行方不明者 16,501 名、避難者約 257,000 名(3月24日 15時現在:警察庁公表)

当館では、災害の最新情報・安否確認先、義捐金受付先などについて、ホームページ上に掲載するとともに、在留邦人に対してはメールマガジンを通じて同様のご連絡を致しました。また、日本赤十字社への義捐金の取次、弔意記帳の受付も行いました。英米主要紙報道をみますと、大災害の被害を蒙っている中でも、毅然として苦難に立ち向かう日本人の姿を取り上げて、感動・称賛した報道もありました。今回の大惨事で不幸にして犠牲となられた方のご家族の皆様にご心よりお悔み申し上げますとともに、少しでも早くに復旧・復興が進むことを心から願っております。

◆ジェット(JET)プログラムの経験者との連携強化に向けて



米 国の大学を卒業したばかりの米国の若者達が日本全国の自治体に派遣されて、公立中・高校などで米語を教える補助教員として活躍していますが、こうした経験を有している JET(日本への英語教師派遣プログラム)の同窓会(JETTAA)メンバーで、フロリダ州に在住されている方達を3月18日の夜に公邸にお招き致しました。

会合冒頭、東北日本太平洋地震・津波の被害者を慰霊するため、黙とうを行いました。その上で、当方から、今後の当館主催やオール・ジャパンによる日本関連活動に対するフロリダ州 JETAA メンバーの積極的参加と結集、今後の連帯活動と呼びかけました。また、フェイスブックやメールによる相互の関心事項に関する意見交換などを今後積極的に行ってはどうかと当方より提案をして、参加者の皆さんも関心をもって聞いてくれていました。



この日のため、車で4時間以上をかけて来られたタ
ンパ地区のジョン君夫妻やオーランド地区のダニエル君、さらには遠く、ゲインズ・ビル
からやって来られたエリーゼさんといった OB 参加者と昨年帰国した6名の新 OB の参
加を含め、21名の JET 経験者が集まりました。参加してくれたメンバーの中には、JET
の第2期生で、平成2年度に埼玉県へ派遣されたジョナサンさんもいました。志木市の
学校で英語を生徒に教えてくれていたこと、また、なじみある川越の町が、しばらく前

に NHK の朝のドラマで全国的に有名になって、江戸期の火の見やぐらのある町並みが大変な人気となったといった話もしてくれました。オーランドから駆けつけてくれたダニエル君は千葉の東金市で、小・中学校で英語を教える傍ら、毎週末にはバイクで千葉県内をくまなくツーリングしていたこと、現在は不動産関係の仕事をしていることなど語ってくれました。昨年8月に日本からフロリダへ戻ったバーバラさんは、香川県に派遣されていた折に、地元の「うどん」が大変においしくて大好きになったこと、教えた生徒達がとてもかわいいといった話をしてくれました。兵庫県に派遣されたアミダ君は名前が阿弥陀さんと同じ名前ということで自慢をしていましたが、神戸・淡路大震災後の復興事業と比較して、今回の東北日本の地震被害からの復興事業の方がより巨額の費用がかかること、かつ、相当の年月を要すると思うという話をしっかりしてくれました。

山口県萩市に派遣されたジェラード君や長野県に派遣されたジョン君達はタンパ地区の JET 同窓会の中核メンバーであり、毎月第一金曜日には同地区メンバーが定期的集まっていること、また、7月初めの週末1日を、日本で味わった夏祭り体験を地元の人達にも味わってもらおうべく、タンパ市内で毎年活動しているとのことでした。当方もタンパ地区に出張した際に、JETAA メンバーとの懇談等に是非参加をしたいとお話を致しました。

■マイアミ補習校の卒業式

翌、3月19日(土)、マイアミ補習校の卒業式があり、幼稚園・小・中学校生徒計42名の卒業生(卒園生)のお祝いに招かれました。地元の私立学校の講堂をお借りして厳粛な雰囲気の中で大抜校長先生から卒業生の一人一人に証書が手渡される様子を、御父母の皆様ともども拝見することが出来、フロリダの天候と同様に明るく華やかな雰囲気 of 卒業式を見学することが出来ました。校長先生、補習校の先生方、学校運営委員会役員の皆様方が活躍されて、卒業式を大いに盛り上げておられました。

卒業式の冒頭、行事担当の中野役員からの御発声により、東北地方太平洋沖地震の被害者へのご冥福を祈り、黙祷を行いました。また、当方からは、卒業生及びご父母への祝辞と併せて、今回の地震被害に遭遇された人々が冷静かつ懸命に困難に立ち向かっていること、一日も早い復旧が進みますようにといった趣旨のお話を致しました。

なお、同じく3月19日には、オーランド補習校(神戸 繁校長)の卒業式もありました。今回は、同時に二つの補習校の式があり、オーランド補習校の卒業式には、ハリス・ローゼン名誉日本総領事に御出席をして頂きました。来賓としての挨拶の中で日本の子供達を思う気持ちが汲み取れて、御父母の中には感動された方も多かったとの御連絡が神戸校長様からありました。

◆フロリダ領事団との定期懇談会(3月22日)

マイアミ在住の各国総領事が集まる定期懇談会は2か月に一度、定期的にあり、今回初めて参加しました。領事団長のベネズエラ総領事の挨拶のなかで、日本とトリニダード・トバコの新メンバーとして加わったとの紹介があった後、日本の震災後の言語に絶する惨状へのお悔みの言葉があり、さらに地震・津波被災者の冥福をお祈りするために全員による黙祷が行われました。

当方からは、3月11日の地震・津波が発生した後、総領事館には多くの総領事及びフロリダ州知事、市長、州民の方々からお見舞いや弔意の表明があり、この機会を借りて深甚なる感謝の意を表明しました。これまで海外での災害発生の際に日本から緊急援助・支援を行ってききましたが、今回は立場が逆となり、支援を受ける側になったこと、極めて多くの国・地域、国際機関からの支援の申し出があったことなどを披露し、被災地の方々が甚大な被害を受けながらも粘り強く、静かに対応していることには海外主要紙が高く評価していること、被災者が一日も早く平常の生活に戻ることが出来るように祈っておりますとの発言を領事団会合参加者に対して行いました。

■マイアミ大学関係者との懇談

3月23日夜、レブラン(Dr. T. LeBlanc)副学長及びバルゲーズ(Mr. A. Varghese)国際担当・副学長補、荻原光徳コンピュータ・サイエンス学科長、鈴木・英文学教授、過去20年ほど、毎年、建築学科の教授と学生達が6週間ほど訪日した上で日本建築を研究する「東京プロジェクト」を担当するビクトリア(Mr. T. Victoria)教授を公邸にお招き致しました。

米国大学トップ50に入るマイアミ大学は、各分野で先駆的な研究を進めており、特に、同大学医学部は欧州・中南米の名門大学医学部との連携活動をしており、また、マイアミ市内中心部にある同大学医学部付属病院と隣接するジャクソン記念病院(公立病院)には多数の同大学医学部出身の医者が勤務して、一般患者の治療の他、臓移植といった最先端医療を行い、全米の最先端医療の中でも最高峰との評価があり、日本との関係では、鹿児島大学医学部と交流を行っています。

2月中旬、ワシントンで開催された在米公館長会議の際に藤崎大使主催レセプションでお会いした立命館大学関係者から、大学の国際化戦略の一環として米国の主要大学との連携を模索中であり、マイアミ大学との学生交換計画など連携の可能性を探りたいとお話をお聞きしました。当方がマイアミ大学副学長・副学長補を表敬・懇談した際、早速に両大学間のパートナーシップについて打診をしています。今後のマイアミ大学と当総領事館との間でのより緊密な関係の構築と活動推進のため、同大学関係者との交流を一層進めていく予定です。

フレーザー米南方軍司令官への表敬・懇談

3月24日、マイアミ空港近くにある南方軍司令本部を訪問し、一昨年6月から同本部司令官を務めるフレーザー空軍大将にお会いしました。同将軍は、沖縄の在日米軍基地に2年間勤務され、また、アリゾナ空軍基地では日本の航空自衛隊パイロットへの操縦指導もされた御経験のある、大変な親日家でおられます。東北日本太平洋地震被害者へのお見舞いの言葉があり、ハイチ大地震発生の際には、日本の自衛隊が



救助チームを

フロリダ州ホームステッドの空軍基地を利用して、ハイチの被災市民の支援活動のために共に当たったことを、フレーザー将軍は今も高く評価されており、今後も自衛隊との協力機会があれば、是非、喜んで協力したいとの発言がありました。{左写真:左側からトリベリ大使(南方軍司令部勤務)、右側写真:フレーザー司令官と当方}(了)



派遣した際、

2011年3月24日 記